

第4日

平成28年12月9日（金）

午前10時零分開議

○議長（浅尾静二君） 皆さん、おはようございます。これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は17名で、会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、一般質問を行います。

質問通告者及び順位はお手元に配付のとおりであります。申し合わせにより、1人当たりの質問時間は答弁時間を含め60分以内となっております。御了承願います。

それでは、最初に12番富田栄一議員の質問を許可します。12番富田栄一議員。

（12番富田栄一君登壇）

○12番（富田栄一君） 財政は大丈夫、子どもたちの安全は大丈夫。大丈夫、考えていると、ひすいこたろう氏の言葉が目にとまりました。大丈夫という漢字は、よく見てみると、「大」「丈」「夫」、それぞれに「人」という字が入っています。あなたに何かあったとき、周りの人は必ずあなたを支えてくれます。どんなときもあなたの味方は3人いるんです。

それから、決断という字があります。決断とは、決めて、断つこと。何かを決めるときは、何かを断ち切る。すると新しいものが手に入ります。

大切という字には切るという字が入っています。執着を切ったときに大きなものが手に入るんです。

癌という字は、3つの口の山の病と書きます。それは、食べ過ぎ、飲み過ぎ、吸い過ぎですとありました。

私は吸い過ぎではなくて言い過ぎなのかなと思っておりましたら、次に光る言葉と続きます。光る言葉と書いて誉める。誉めてあげると、相手は最高の笑顔で輝きます。

私は気づかされました。そうだ、朝倉にはまだ眠っている光る言葉がある。その光る言葉で市民の最高の笑顔を見たい。また、私自身もおかげさまで、少しずつ少しずつですが元気に歩けるようになってきました。本当にありがとうございます。

さて、10月27日の新聞を持ってきました。議長の許可を得て持ち込みました。朝倉市都市圏版記事です。朝倉市「美奈宜の杜」20年記念シンポ「あらゆる世代輝く街に」です。今議会に提案されている水の文化村の活用についても話があったようです。行政が先頭に立ち、住民と一緒にあって真剣に取り組む必要性を感じていると、森田市長の言葉があります。記事を読んだ市民から期待の声を多く聞いています。

また、その日の新聞のトップ記事は「津波犠牲、大川小に過失、襲来予見できた」でした。想定外のことがあっても、学校管理下で子どもの安全を守るのは教師ということ。市長、教育長は、この記事をどう読まれましたでしょうか。

杷木に建設中の新設小学校は、1時間80ミリ、3時間200ミリの雨が降ったらどうなるのか。この議場で朝倉市も認めている資料で議論しました。想定内です。学校、防災、教師の責任重視、仙台地方裁判所では想定外でこの判決です。

杷木新設小学校の起工式するとき、大きな稲妻が鳴りました。しかし、前日の雨は大して降っていなかったので安心していました。インターネット配信で見ている保護者の皆さん、ネットですぐ見える杷木新設小学校近くの降雨計があることをぜひ先生方にお聞きしてください。そして、安全のバロメーターとしてください。

そして、私はお願いするしかありません。森田市長、宮崎教育長、子どもたちのために、また先生方のために、よろしく精査をお願いいたします。

続いて、質問席より質問いたします。

(12番富田栄一君降壇)

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 市民の小さな声を議会へ届けるということで、少数意見を市政にどう反映しているのか。事前通告のとおり、1、防災行政無線、2、朝農跡地県有地についての質問について答弁をお願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 防災行政無線で質問にありましたのは、防災行政無線は全戸聞こえると言っていたが、その後どうなったのかというふうなことでございました。

全戸聞こえるという話でございますけれども、導入当時のやりとりの中で、全戸聞こえるように目指していくというお話だったというふうに受けとめておるところでございます。

その後でございますが、全戸に聞こえることが導入目的でございます。ただし、さまざまな条件、地形等によりまして、なかなか聞こえづらいたともあるということでございますけれども、そういう課題を認識しつつも、当時の最善策として決定したものだというふうに思っております。

その後でございますが、大切なことは情報をいかに早く正しく伝えるかということでございますので、そういう観点からいきますと、情報を伝えるためには多ルート化だと考えておるところでございます。

防災無線だけではなく、有線放送とか、オフトークとか、緊急速報メール、防災メール・まもるくん等を利用し、情報を伝えているという現状でございます。

それからもう一つ、朝倉農業高校跡地県有地の定額購入は正しかったのかという質問のことでございます。

当時でございますけれども、朝農跡地の活用につきましては、校友会の土地と県有地の土地の一体的活用で検討すべきだということでございました。減額譲渡のことも考えられたわけでございますけれども、そういうやり方でいきますと、活用方法の縛りがあるということでございましたので、一般譲渡として財産を取得したということでございました。

県との土地取得協議の経緯も含めまして、当時の決断としては適切になされたというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 私が事前通告をしまして気づいていただきたかったのは違う角度からであります。防災行政無線については、コンサルタントの理論上の意見というのが、この議場でしっかりと話されました。

しかし、地域の実際の条件の差があるということが大事だということが、このことでわかったのではないかなと。100%そのとおりでないと。コンサルタントの意見を地域に合ったものに変えなくてはいけないんだということを、私はここで学ばされたと思っております。

2つ目の朝農跡地でございますけれども、これは、そのときに添田町が田川商業高校跡地を購入しているということを執行部の皆さん御存じだと思いますし、西日本新聞にもしっかりと出ておりました。減額譲渡でもって全地を購入した後に、企業誘致をした後、その部分については県に戻したということであります。

何を気づいたかというのは、私は、黙っていたら県の指導はないんだよと。県は市町村を指導するという役目があるかと思うんですが、同じ交渉をやってる高校跡地について、片側はそういう方向で、片側はまた違う方向でということで、主体はやっぱり私たち、自分たちが中心になってやっていかないかんとということではなかったかなと思っております。

では、3番目、今、少数意見をどう反映しているのかということで、決算についてであります。杷木新設小学校建設準備委員会での市長の約束は、予算がないということでできないということが準備委員会での話であります。28年度、黒字決算だったら、予算がないではまた通らないのではないかなと、私は一議員として思っております。

2つ目は庁舎建設についてであります。前も申しましたが、コンサルタントがつくった新庁舎についての書物は、隣の町の写真が使われておりました。議会の指摘後に写真だけが削除されて、それに伴う中身の変更はなかったかと思っております。コンサルの言う、どこにでもある庁舎でいいのでしょうか。

この2つを質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 質問の中でコンサルのことでございますが、コンサルタントの利用につきましては、データなり、専門的な知識を活用していただくというようなことで、コンサルを利用なり、活用しておるわけでございますけれども、判断なり、決断をする際におきましては、そのデータ等をもとに市が吟味をいたしまして判断をしておるというようなことでございますので、コンサルのものをそのまま使うというようなことはないというふうに思っております。

質問の趣旨がちょっとわかりづらうございましたので、コンサルタントにつきましては

そのように考えております。（発言する者あり）小中学校のことにつきましては、済みませんがもう一度お願いしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 何を質問するのかわかりませんが、私が言っていることがわからないことが不思議なんですけれども、準備委員会で市長が約束していることができてないよということが上がってます。それは、準備委員会の出席者メンバー全てが聞いていることです。コミュニティ会長。そのことがわからないことが不思議なんです。約束していることをできないと。それは予算がないからだということが原因でしたが、そういうことでいいのかなということです。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 市長が約束したことということなので、あえて私から答弁させていただきますが、そのことについて、どういう約束であったのかについてもお知らせをいただきたいと思います。私はその席に出ておりません。ですから、わかりませんので、私が約束したということは、恐らく教育委員会なり何なりがその委員会の中で話したことだろうと思います。そのことについて、もう少しわかるようにお話をいただければというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） そのことについて、私はもう議論する予定ではなくて、逆に組織のあり方について私は議論しているので、今市長が知らないこと自体が、本当にこの朝倉市の問題だと思っております。

プラン、ドウ、チェック、アクションと、よくこの言葉が出ます。チェックが何なのか、アクションが何なのかということが、はっきり重要視されていないんじゃないかなと今思うんですが、市長のどうのこうのじゃなくて、今の組織のあり方として、チェックとアクション、少数意見は間違いなくチェックの中に入ってくるはずだと思うんですが、いかがでございましょう。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 恐らくその場に出られたのは教育委員会だろうと思います。私は出た覚えがございませんので。私の約束ということは、教育委員会を通じて市の約束という形で理解をされておるとのことだと思います。

ただ、1つだけ言いたいのは、教育委員会がそこでいろんな話をして、それが約束という形になっておるとするならば、当然、そのことについて私のほうに上がってくるはずであります。予算等も含めてですね。しかし、残念ながら、内容は知ってます。恐らくあのことだろうという内容は知ってますけれども、そのことについては、聞きますところによると、教育委員会と地元との認識の差があったみたいな感じがいたします。今、約束約束と言われますけども、教育委員会の判断としてはですね。ですから、結局、財政との話の

中で、そこで終わってしまった話だと。それで、その後に私のほうに上がってまいりました。

恐らくそのことについては、来年度の予算の中に入るだろうと思ってます。ですから、そのことについては、そういうことでありますので、私が約束したと、私が口頭で約束したみたいな受け取り方をされると困りますんで、そのことだけについては、きちっと申し上げておきたいというように思ってます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） そのことについては次回にさせていただいて、今回は財政を主に持っていきたいと思っております。チェック、アクション。本当にチェックがどうなるのか、そのためのアクションがどうなるのか。

財政見通しについての次の質問に移らさせていただきますが、いつ、どうやって黒字になっていくのでしょうか、質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 財政の見通しで推計をしておるわけですが、その財政の見通しといいますものは、一定の条件を与えたらこういう形になるということでございます。それが財政計画というものではございません。一定の与条件のもとでのものであるということでございますけれども。

その中では、財政の収支がそういう形になるというふうに試算しておるわけですが、いつ黒字になるのかということですが、赤字にならないようにするというのが財政の務めでございますので、ふだんに経費節減などを行いまして、赤字にならないというような財政運営を行っていくということでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 議会に財政見通しを示されました。財政計画ではないので、計画は黒字じゃなくちゃいけないので見通しだということもよくわかりませんが、しかし、議会に財政についての赤字見通しを出されても、議会は何の政策も打ち出すことはできないということは執行部の皆さんは御存じだと思います。有効な行財政改革は執行部にしかできません。議会はだめだったら否決をする、このことしかできないんです。執行部は議会に何を期待されているのかお尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 市が例えば財政なり、財政を運営していくためには、毎年毎年、予算の審議をお願いしているわけですが、当初予算でいきますと、翌年度の財政の予算、そういう予算につきまして、こういう考え方で進めていきたいというような提案をするわけですが、そこできちんと議決をしていただくということになるかと思っております。

ただし、その議決をする際には、多くの議論を踏まえて議決をしていただくということ

でございますので、予算に関していきますとそういうことであろうというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 財政見通しが赤字になって、何も大型事業をやらないというんだったらそれでいいんですが、今、大型事業をやろうということで、多くの市民は不安に思っている。負の財産を子どもに残したくないということを思っているということは御存じのこととってます。

では、予算をつけることは議会ではないということはわかってると思いますけども、行財政改革は人件費から始まって市民サービスへと移っていくのが普通ではないかなと思ってます。

ところで、現在、行政区各区の区会長またはコミュニティ会長からの要望に対して、執行部は、まず1番に出てくる言葉が予算がありませんと、市民サービスに痛みを強いているという現実があることはわかっていたいただいていると思います。これでいいのか。行政改革は身近なところから考えるべきではないのですか。

今の職員の皆さんの給与ランキング、この前、全員協議会で申しました。調べてもらってと思います。福岡県で60市町村中7番目にあります。それが、この財政見通しのおりだと、10年後、そして20年後、職員の給与はどう変わっていきますか。そして、そのとき本当に、今の皆さんがよくても、後輩職員が悪くなっていいのでしょうか。また、市民の所得と税金等はそのときどうなっているのか、わかる範囲で答えていただきたいと思えます。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 全体的な財政の見通しのことでの流れとっておきまして、議員が赤字になる、赤字になるということをしっかり言われてありますけど、財政の見通しでは赤字になるという形ではしておりません。

収支を計算したら歳入が足りないような形に数字上はなっておりますが、これはもう何回もお話しておりますように、財政調整基金とか、減債基金とか、そういう特別な基金を入れてないという前提での試算ですから、どうしても収支はマイナスになるという形を申し上げてることございまして、仕事を長い間行っていく場合には、特別にその年にお金が必要ということもありますし、大きな事業をすれば、その年の税金では収支ができませんので起債を借ります。起債を借りましたら、後年度に償還が出てきます。その負担は当然出てきます。

ですから、そういうものは起債を借りたときに一般財源が浮きますから、減債基金等のためときまして、後年度、償還が来たときにそれで充てましょうという形で計画しておりますので、財政の見通しでも、10年先では十数億円の減債基金があるということをお示した上でございます。

ですから、赤字赤字と言われますが、毎年の収支、32年、33年になって、そういう不足

が出れば、当然、減債基金から当初の考えどおり、将来の負担にためとったお金でございますので、充てるといふことで、赤字にはならないということにまず考え方を変えていた  
だきたいなと思っておるところでございます。

そして、今後は、そういうこと的前提での話が流れてきてますが、確かに人が減りまして、  
いろんな税収は減っていくのは確かなことでございます。私どもも合併しまして、今  
まで10年たってきておりますが、人件費の総額を見ていただければわかりますように、10  
億円以上削減してきたところでありまして、これは、議員皆さん方の定数も減ってきたんで  
ございまして、15%の職員定数を減という形で目標でしてきまして、それに近づく数値を  
出してきたところでございます。

ですから、1年に10億円減れば、それは累積のものとしては非常に大きな効果が今出て  
きておりまして、そういう形で今やっておりますので、人件費がまだ今でも高いというよ  
うなことを言われておりますが、それは一つの指標で、ラスパイレス指数とか、そういう  
見方ですればそういう見方もあろうかと思っておりますが、全体的な人件費という見方ですれば、  
それなりの努力はやってきてると思っておるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、副市長から全体的な財政の考え方については答弁いたしました。  
そこで、市が皆さん方にお示ししております、10年先の財政の見込みという表がござ  
います。本来、これについて申し上げますならば、今までどおりの、要するにある程度、  
最高限度でした場合はこういう形になりますよと。これは、私どもにとっては一つの指標  
であって、例えば今言われましたように、財政足らなくならないように、こうならないよ  
うにどうするかという一つの目標でもあるわけです。

もう一つ、議員の皆さん方から御要望もありますし、出しておるのは、それについて、  
議員の皆さん方も一緒に考えていただくということで提示しておるものであるというこ  
とを御認識いただきたいというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 赤字という考え方、行政と民間は違うかと思っております。私も商売  
してしますので、単年度の収支というのが赤字になることが後々ずっと響いてくるというの  
は、私ども民の人たちはわかってることではないかなと。ちりも積もれば山となる。9月  
議会でも申しましたが、そういう小さい積もり方がいつの間にか、景気の回復をやろうと  
思っても投資に行くお金がないというのがこの前申しましたとおりでした。

そういうことで、もう一つ、本当にそういう民の人がしっかりと心配してるんだと。そ  
れと、本当に市民サービスについてを同じ目線でぜひ見ていただきたいなと思っております。

視察で北海道小樽市に行きました。小樽市の博物館の職員さん、新しくうちにできる博  
物館のボランティアをどうするかというのが一つのテーマでしたんですが、ボランティア  
ではなくて、職員さんのお手伝いでしたという言葉でした。職員さんが予算がない中で頑

張っていらっしやる。100円ショップで何か材料も買うてきて、何かできないかとしてると。それは、朝倉市の職員の方々もすごく頑張ってる人は知ってます、私も。しかし、それを市民の方がわかって、私たちは手弁当で、保険も自分が出して、ボランティアでなくてお手伝いばしよりますと。

私は矢祭町に視察に行かせていただきましたけれども、矢祭町、365日庁舎をあける、あの町とこの小樽の博物館の職員さん、この2つから、本当に市民の方がボランティアじゃなくてお手伝いだということを聞きました。ぜひ市民の目線というのを忘れないでいただきたいと思ってます。

次に移らせていただきますが、大型事業は今のままやるという方針は9月議会でも話されました。11月、全員協議会で新庁舎、建物だけでなく、総予算として60億円、総合的体育施設についても跡地周辺事業も含めて60億円というふうにお尋ねして回答いただいたところでありました。

また、補助金を引いたそれぞれの市の、それぞれについて市の実質予算というのがあるかと思いますが、それを幾らなのかと。

また、新庁舎、そして総合体育館の年間維持費についても全協でありましたが、改めて議場において正確な数字をお知らせいただければと思います。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まず体育館でございます。体育館の事業費につきましては、備品代を含めまして合計38億6,765万円を見込んでおります。

それから、運営経費につきましては、総経費といたしまして、人件費、業務委託費とか経費がかかるわけですが、全体といたしましては5,860万円を見込みまして、使用料、事業収入などにつきましては指定管理者が受け取りますので、市からの持ち出しといたしましては4,580万円を見込んでおります。

それから、庁舎の事業費につきましては、これはまだ11月16日時点でございますけれども、概算事業費は54億7,800万円でございます。この概算事業費には、周辺整備事業費や外構工事、移転費用等は含んでおりません。

それから、庁舎の維持管理費につきましては、現在、庁舎の基本設計中であるということとございまして、積み上げをしておるわけではございませんで、現状と同じ額ぐらい。どのくらいかと申しますと、平成27年度では、この庁舎が6,400万円程度でしたので、その程度ではなかろうかという大ざっぱな見方でございますけれども、そういう見方をしておるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 今私が聞いたかったのは、建物そのものではなくて、全協でも申しました、その周りの外構工事とか、それから体育施設については、そのほかの周辺整備事業も含めた総金額のところ、全協で60億円ですかねという話をしたので、その金額



の確認をしたくてお尋ねしております。

また、市の実質予算、補助金を外したところの予算についての回答もなかったもので、そこについても改めて回答をお願いします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 朝倉農業高校跡地整備につきましては、全体、つまり造成とか、体育施設、インフラ等を含みまして60.6億円を見込んでおります。

それから、財源でございますけれども、これは、公園整備の事業で社会資本整備交付金等が活用されるわけですが、その中での交付金そのまま来るか、それとも半分しか来ないかということで想定を分けておりましたけれども、そのうちの通常どおりその交付金が来ますと、交付金27.7億円を想定しております。

それで、地方債を28.8億円、一般財源が4.1億円、合計の60.6億円でございます。それが半分しか来ないというようなことになると、補助金が15.7億円、地方債が40.3億円、一般財源が4.7億円、合計60.6億円でございます。

質問の中で実質予算というような御質問でございましたが、その意味がわかりかねておりますので、もう一度説明をお願いしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 事前打ち合わせをしたつもりだったんですが、実質予算ということは、要するに補助金等がありますよね。合併特例債を含めたいろんなところの補助金を外したところで、市の本当の持ち出しの予算は幾らなんですかと。それが市民に説明する必要があるんじゃないですか。それが動いてしまうと、またそれぞれに非常に厳しいので、この議場でしっかりした数字を押さえさせてくださいというのが私の思いでした。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 朝農跡地整備でございますが、先ほど全体60.6億円ですが、通常想定しております交付率2分の1とか、3分の1でいきますと、一般財源が4.1億円と申しました。それから、地方債が28.8億円と申しましたけれども、交付税措置が20.1億円ありますので、8.7億円ありますので、8.7億円が交付税の償還時に手出しする必要があるということになりますので、8.7と4.1億円を足しますと12.8億円、全体60.6億円のうち12.8億円が手出しという形になります。以上です。

今申しましたのは通常どおり来るということでございますが、通常どおり、その半分しか来ないというようなことでいきますと、一般財源は4.7億円と申しました。それと、交付税の関係で見返りが12.2億円ありますので、合計しますと16.9億円が手出しという形になります。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 朝農跡地総合的なものでいうと60.6億円で、実質は2分の1のときに12.8億円、4分の1で16.9億円ということですね。あと、市庁舎については54.7億円

ということでしたが、外構工事等全てが入っていないということで、これについては、全協のときも話しましたが、それでしたら60億円になるんじゃないですかと。今までの議会に対しての言葉はですね。全ては。そういう形の確認をしたいんですが、そこはどうでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 庁舎の事業費、建設関係は54億7,800万円と申し上げましたけど、60億円といいますのは、それ以外の外構とか、いろいろした場合がありますので、この中に入っておりませんでしたので、財政の見通しの中では60億円という形で試算をさせているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） ありがとうございます。大型投資についても非常に危惧するところでありますが、実は私が思ったのは、9月議会で投資的経費の減少が問題であると、先ほども申しました。言ったことです。それで、議会に提示された——済みません。失礼しました。補助金のつきにくい、もう一つの大型事業というのがあるんじゃないかなと。それを非常に心配しております。

それは何かというと、無理があり過ぎると私自身は反対しましたが、賛成多数で承認しました、あとは実行あるのみの公共施設等総合管理計画です。既に平成27年から毎年、公共施設29.7億円、それから道路、橋梁、上下水道合わせて23.5億円、合計53.2億円が毎年毎年、平成66年までの40年間必要となっています。計画の最終年度は決まっていますので、早く動かないと年間の予算規模が大きくなっていくのは御承知だと思っております。

この10月には、議会報告会で市民へ、その一部を報告してまいりました。やらなくてはならないことです。現在、各課にどういう指示を出して、どう予算立てを考えていらっしゃるでしょうか、質問します。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 各課への指示につきましては、個別計画をつくっていただきたいというような指示を出しておるところでございます。個別計画といいますのは、先ほどの総合管理計画につきましては、全体的な理念とか、考え方を出すものでございまして、各分野、例えば住宅とか、学校とか、道路、橋梁とか、さまざまな分野があるんですけれども、さまざまな分野の個別計画を出すように指示をしておるところでございます。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） プラン、ドウ、チェック、アクション、何遍も言いますが、少数意見を大事にしてくださいと言いました。個別計画をそのまま出したら、職員の出した計画はめちゃくちゃな数字になってしまうというのを、あのときにこの議場で申しました。

議会に提示された財政見通し②におきましては、維持管理費は、平成36年度、7,900万

円です。同じく投資的経費、普通建設事業費は、平成36年度、13億4,800万円で計算されております。そして、単年度収支では2億8,000万円の赤字が上がっております。公共施設等総合管理計画は入っておりません。

では、平成66年までの毎年、53億2,000万円という、この金額をどうするのか。そのまま各課に流していいのか。また、2分の1に絞りなさいと指示を出しても、26億6,000万円です。無理を承知で、いや、10分の1に絞りなさいと指示を出しても5億3,000万円、その数字が財政の赤字に上乘せしてきます。このことを市長はどう考えて、どう計画するように指示をされていますか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 前回もお話したと思いますけど、公共施設整備計画といいますが、国が示されました耐用年数ごとで何年何年、この道路は何年かかって、維持費がどれだけかかるという試算に基づいたものでございまして、それを積み上げたものが、今議員が言われております数字になったということでございまして、そのとおり修理をするかどうかというのは今からの計画でありまして、道路、建物、いろいろあるわけですが、長く使っていくということもあろうかと思えます。それから、場合によっては廃止をするということもあろうかと思えます。

そういう形で、そういう個別計画を今から原課に、担当課に指示をして、今総務部長が言いましたようにさせているということでございまして、あの数字がそのまま2分の1、財政見通しに入ってくるとか、そういうことは私どもは考えてないということでございます。できるものからやっていきます。

先ほど言いましたように、財政の見通しというのは現在計画されてるものを書いておりますので、維持費は確かに今低いような状態になっておりますが、個別計画等がいろいろできてくれば、そういうものをこの財政の見通しの中には入れていきたいと思っております。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今言われますように、公共施設等総合整備計画、これは、国のほうからこれをつくりなさいという一つの指針を持ってきた話。それで、これをつくらなければ、28年度、今年度までにつくらないと、その後のいろんな長寿命化計画等についての国の予算等がつきづらくなると。はっきり言うなら、ないところにはつけませんよという話だと。

一方、私どもは、既にやっていますけれども、今それに基づいて計画つくってます。実際の計画をですね。既にあるものについて言いますならば、朝倉市公営住宅長寿命化計画ですとか、朝倉市橋梁長寿命化修繕計画、そういったものをほかの部門でもつくろうということですから、必ずしも今国に提出、つくった計画等は内容的には変わってくるんだろうと思えます。それをまだ今から計画の中にのせていくということは今副市長が申し上げた

ということであります。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 長寿命化計画等を本当にそういう方向性をトップがすべきではないかなと。ただ職員にやりなさいと各課に投げても意味がないと私は思います。無駄なことになるのではないかな。2分の1に絞り込みなさいと言っても大変なことだと思ってます。しかし、2分の1に絞り込んでも大変であります。10分の1に絞り込んでも大変である。また、これに補助金がつくかというのも大変見通しづらいところもあるかと思ってます。各課によっていろんな事情が違うと思う。

国はどんどんそういうふうにして、下水道も今度、企業会計にということに入ってまいりますけれども、この議会に提案してまいりましたけれども、であれば、企業会計が黒字になるためには早くに事業を促進して、下水道事業を軽くしてあげなくてはいけない。そういうことも市長の頭の中には入っていると見ています。

であれば、財政見通し、財政計画というのをもっと真剣に、職員のためにも、職員の仕事が足し算になるような仕組みをつくる必要があるかなと思っておるのですが、再度、10分の1でも厳しいというこの言葉、それと、副市長がさきに申されました、基金があるから大丈夫ですということでもありますけれども、基金がなくなったらどうなるの。さらにこういう大きな事業が控えていますよということを含めて、ぜひ市長のお言葉を聞かせていただきたいと思えます。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 当然私どもも見通しというものをつくって、最悪の状況にならないようにという考え方の中で、その年度、次の年度をやっていくということ、そして最終的には、今言われますように、私が一番考えますのは、財政が厳しくなったからといって、住民サービスの低下というものを招かないよう、ある一定の住民サービスの水準というのは確保しながら、やるべきことをやっていくという考え方でおりますので、そういう形でやらせていただきたい。

それから、今言われた——そういう形で進めさせていただきたいというように思っています。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 市民サービスをぜひ大切に。今の夕張、御存じかと思ってます。学校も1つになり、公共施設もあばら家になってしまって、住民がいなくなる。税金も高い、それで高いと。そういうふうにならないように、国としてもこの計画を立てなさいと話したのではないかなと私は思っているところでもありますので、強い意思をお願いしたいと思ってます。

3番目に移らせていただきますが、朝倉市の地価と人口の落ち込み、さらにばらばらの政策と、市民の声が聞こえてまいります。

国土交通省発表の朝倉市公示価格、平均が10年で55.6%に下落しています。この事実は本当なのでしょうか。ネットの中でああ言ってます。また、人口減、1年間で、住民票から10年間、1年平均でマイナス584人、国勢調査からは5年間、1年平均でマイナス782人、本当でしょうか。そういう財政の見通しが無い中に、大型事業ということで、ばらばらの政策だというふうな声が聞こえてまいります。それについても答弁をお願いします。

○議長（浅尾静二君） 市民環境部長。

○市民環境部長（中山玲子君） インターネットでごらんになった、地価公示価格の平均ということでお尋ねでございます。議員が御自分で算定をされて、合併時の55.6%ということで数字をはじいてあるんですけども、そもそも国が示します地価公示の標準値、県が示します地価調査の基準値は、地点そのものが変更されたり、地点数が増減するなど、一定ではございません。したがって、このような地価公示価格、県地価調査価格の平均は、地価動向を見るには適さないというふうに考えます。

下落という点については、それら調査対象の地点ごとの地価は、御存じのとおり下落は続いております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 人口につきましては正しゅうございます。それは間違いありません。

それと、ばらばらの政策ではないかというふうな質問でございましたが、質問の趣旨がよくわかりませんでしたので、なかなか答えにくうございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 事前通告というのがこの議会にはありまして、ちゃんと通告しているんですが、大体どうなってるのかなと思います。総務部長、事前通告の意味は何でしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 議論を集中といいますか、議論の的を絞るためにあるというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 市民の声を率直にこの議場に上げさせていただいてるのが、この言葉です。ばらばらの政策だと市民は心配してます。それについて、私はグランドデザインとかは大事だよということは議会で言ってますよと言ってますが、いやいや、ばらばらだということなので、あえてこの議場でお尋ねさせていただいています。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 市民の意見もいろいろあるかと思いますが、ただ、今言われるばらばらの政策という意味が、こちらとしては理解できないということだろうと思います。

ただ、私どもとしては、政策としてはばらばらにやってるつもりはございません。例え

ば今一番大きな問題で言われた人口減少についても、今回、議会の皆さん方の御了承もいただきまして、総合戦略を立てまして、それに基づいた政策をやっていくということでやろうとしております。ですから、ばらばらの政策をやっておるといふつもりはございませんので、そういう形。市民のいろんな意見はあると思いますけど、御認識いただきたいと思ひます。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 議事の進め方で私お尋ねがあるんですけど、事前通告ですから質問の趣旨をしゃべらないというのは、私はどうかなと、今聞きながら思っているんですけど。確かに事前通告で言われて、中身は聞いております。ただ、ここにおられる議員の皆さんとか、市民の皆さんは、何の質問があつてるのか一切わからんまま、事前通告だから答えろと言われたのは、私はそれでいいのかなと思ひながら、それでいいなら答えますが、そのあたりはどうかしてもらいたいと思ひます。私としては、この場で質問の趣旨を皆さんの前で言っていたきたいなと思ひております。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 議事の進め方については、また議長とちゃんと話をさせていたきたいと思ひております。

私が申したかったのは、もう一つ、公示価格について今お話をいただきました。国土交通省において地面の地点を変えてるということでありまして、適正な数字ではないよということでありましたが、国土交通省も何かしらの思ひがあつて変えてることだと思ひますので、間違いなく朝倉市の地価が下がっているということの認識においては間違いはないかなと。もっと言えば、この地点が何%ぐらい下がってますよというのが出てくるのかなと思ひたけど、できれば、教えられることであれば、議会のほうにも教えていたきたいと思ひております。

時間がなくなつてまいりましたのであれなんですけど、私はこの朝倉市の政策の中で今大事なのは何か。それは税収をアップすることではないかなと思ひております。

そこで、税収をふやす政策にかじを切ることが大事。人口をふやすには、私の頭では、市長が提唱されておりました博多駅への直通列車事業、これを真剣に取り組んで成功させることやないかなと思ひております。これが一番の切り札ではないかなと思ひますが、いかがでございましょう。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今言われました博多駅までの甘木鉄道の直通については、今その可能性調査を今年度やっておるところであります。もし可能性があるということになれば、私も真剣にこの問題に取り組んで、実現するように努力をしなければならんと思ひます。

ただ、可能であると結論が出たとしても、非常に大きなハードルがあるということ。それをいかにして乗り越えるかという努力。これは、私一人ではできませんので、市民の皆

さん、あるいは議会の皆さん方、そして県とか、そういったものを巻き込んでやらなきゃ、それでも非常に厳しい状況であろうかと思えますけど、それでもやる価値があるし、やらなきゃならんというふうに考えておりますので、もし可能であるという結論が出た場合、皆さん方の御協力もぜひこの場でお願いを申し上げておきたいというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 市長の施政方針に上がっていたことだと思ってます。ぜひやっていかないと。そのためには財政もしっかりと応援せないかと。財政のしっかりした確保も必要ではないかなと私は思っております。博多駅直通列車事業には、まず何はともあれ、JR九州の協力がないと成功しません。列車を通すためには、魅力のある朝倉市をPRしていかななくてはいけないと思ってます。

ただ、私の頭では、駅と市庁舎とマンションの併用施設の建設、東京都豊島区区役所の朝倉市版の建設に挑戦することが一番だとしか浮かんでできません。さきの議会で、東京とこの朝倉のマンション事業の経営の環境が違うので夢物語だと御指導をいただきました。

ならばと、朝倉市にあるマンションの入居率を12月1日で調べました。次のとおりです。分譲マンションが朝倉市に杷木を含めて4棟あります。131戸中、幾つ入っているでしょうか。130戸が入居しています。入居率99.23%でありました。

賃貸マンションは、これは築30年以内のRC構造3階建て以上で、間取りが2DK以上、ファミリータイプの物件ということで調べてもらいました。筑前町の物件も含めて108戸中99戸が入居、入居率91.66%であります。どうも課題の一つは解決できそうです。

あと、まちづくりの理念、物語ができて、住みよい朝倉市の政策が一体化すれば、夢が現実に近づくのではないかと思います、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 言われるとおり、いろんな人を集める方法として、マンションの建設は一つの考え方だろうと思っております。それで、私どもが今考えておりますのは、甘鉄甘木駅前のあの一面を国道322号のクランク解消という形で今考えておまして、その中で、いろんな民間施設、住宅のマンションが来るのか、アパートが来るのかわかりませんが、そのあたりを含めまして計画してるところでございまして、言われてるようなことは、その中でどこまでできるかを民間の投資の状況を見ながらも今検討してるところでございまして。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） やるからには、市民と行政が一体になってやらんと元気は出てこんとです。民間任せじゃなだめです。特にここでは難しいと思ってます。

私は、陸の孤島と言われているこの朝倉市ですが、意外と福岡に近い。公共交通機関で約1時間で福岡へ通勤、通学ができます。さらに、博多駅まで直通列車を走らせようと計画しています。そしたら、座って1時間で通勤できますよ。さらに、朝倉はきれいな水を

生む町です。おいしい空気、おいしい食べ物ができます。四季の風、鳥の声も聞こえてきます。子どもたち保育園も待機児童はありません。甘木駅前事業が成功すれば、公共交通機関で1時間で福岡へ行ける素敵な町がPRできるのです。

この成功事例は、高速バスで1時間、約1時間の朝倉インター、杷木インター周辺の開発が進みましょう。さらに、西鉄電車駅周辺、西鉄バス操車場周辺と広がる可能性もあります。もちろんレールバス沿線市町、それぞれのレールバス各駅周辺が開発されていくでしょう。

もう一つ、朝倉の町ができた源、農産物の集散地としての役割。市と、市役所と一緒に作ったマンションに、地域づくりボランティアをしてくれる学生を低家賃で募集します。そして、週末、駅前マルシェ、青空市場を開くスタッフとして活躍していただく。東京では十分にそういうことが実践されております。福岡から公共交通で来ていただいて、おいしい空気と人と出会って、買い物をしていただく朝倉市ができます。

東京都にできたものが、ここで、この朝倉でもできること、駅と市役所とマンションの併用した建設、成功すればすごいことだと思いませんか。間違いなくニュースになって、朝倉市の住みやすさは、そして利便性は話題になるでしょう。

皆さんから夢物語だと言われていましたので、朝倉市のマンションの入居状況を調べました。可能性ゼロではないです。埋もれている光る言葉、福岡に公共交通機関で近いと褒められることで……

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前11時零分休憩